故黒田杏子さん、山口青邨（盛岡出身）の系譜継ぐ結社

心つなぐ 俳誌「青麗」創刊

本県会員も句作に励む

俳誌「青麗（せいれい）」（髙田正子主宰）が創刊された。俳誌「藍生（あおい）」の創刊主宰黒田杏子さん（昨年3月死去）と、黒田さんの師山口青邨（1892～1988年、盛岡市出身）の系譜を継ぐ結社。本県にも拠点があり、会員は清新な気持ちで句作に励んでいる。

創刊号の主宰作品は「あらたまの」と題された10句だ。「あらたまの一誌につどふこころざし」など、黒田さんへの敬慕と門出の思いをにじませる。会員らの句は本県を含む全国から寄せられた。

3月号は黒田さんの追悼特集を組んだ。盛岡市の二階堂光江さんは「ご自在に」と題し、黒田さんの最終句集を手にし、読み終えた際の感慨をつづった。

「俳句をしているだけで親しくなってしまう不思議に救われてきた。恩返しというより恩送りとして結社をつくった」という髙田主宰。「青麗」は自身の第3句集のタイトルで、青が「藍生」の藍、青邨の名にもつながることに気づき、出立に掲げた。結社としては師系の2人のように、季語を現場で、自らの目で丹念に見つめる句風だ。

ホームページ（HP）を「動く俳句雑誌」と位置づけ、ウェブを活用する運営も特長の一つ。コンテンツを充実させ、紙の会誌と両輪で回す。登録制の会員ページが設けられているのは斬新で、投句のほか、句の確認や修正などもできる。

会員は現在200人。隔月で700部を発行。次回5月号は5月1日に刊行する。本県の会員は15人おり、二階堂さんが代表を務める「あをい盛岡」が定例で句会を開いている。

髙田主宰は「上手でなくても言いたいことが伝わればいい。うまさより自分らしさ。俳句でつながっていきましょう」としている。

入会申し込みや詳細は青麗のHPへ。

「青麗」創刊号と、黒田杏子さん追悼特集号

「青麗」のホームページはこちら

2024年4月5日岩手日報掲載
転載許可取得済み